

(2) 調査遺跡の概要

どうで 道出遺跡 (第1・2次)

遺跡番号	208-042		
調査次数	第1次・第2次		
所在地	山形県村山市土生田字道出		
北緯・東経	38度33分46秒・140度23分56秒		
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課		
起回事業	東北中央自動車道(東根～尾花沢間) 第1次		
	一般県道大石田土生田線(仮称)村山大石田IC設置工事	第2次	
調査面積	3,500㎡ 第1次	1,200㎡ 第2次	
受託期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日		
現地調査	平成25年5月8日～8月30日		
調査担当者	高橋敏(調査主任)・岩崎恒平・板橋龍		
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所		
遺跡種別	散布地		
時代	縄文時代、近現代		
遺構	陥し穴、柱穴、土坑、性格不明遺構、倒木痕		
遺物	縄文土器、石器、剥片、陶器(文化財認定箱数:5箱)		



遺跡位置図 (1:25,000)

調査の概要

道出遺跡は山形盆地北端の最上川右岸、ゴルフ場の南側に広がる低丘陵の南端部に立地する。最上川の氾濫原に面した南向きの緩斜面で、スイカや蕎麦などの畑地となっている。今回の調査は、高速道路本線部分を第1次、地域インターチェンジ設置部分を第2次と呼称して調査を実施した。調査区は、道出遺跡の南東端部にあたる。

遺構と遺物

調査区の北側では、いく度かの地目変更などに伴う土

木工事により大きく削平を受けており、キャタピラの跡や掘削坑などが明瞭に確認できる。

検出された遺構は、陥し穴や土坑のほか、性格不明遺

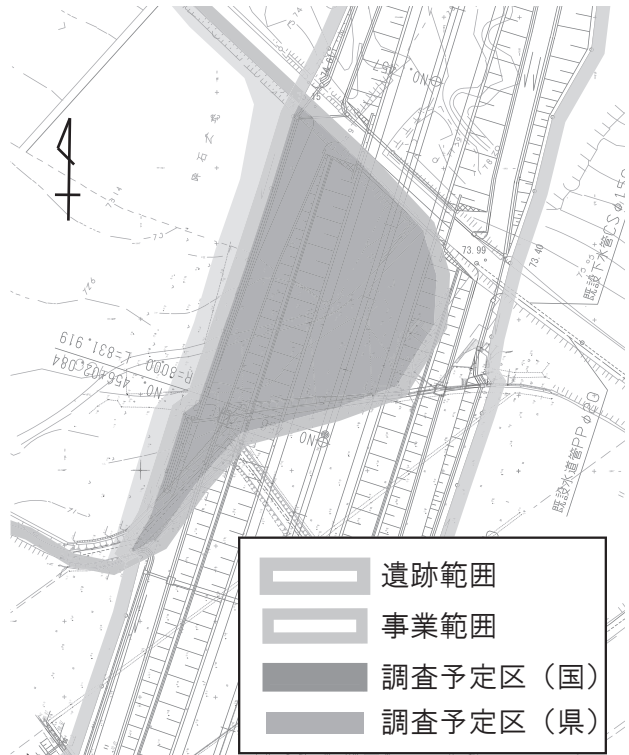


図1 調査概要図

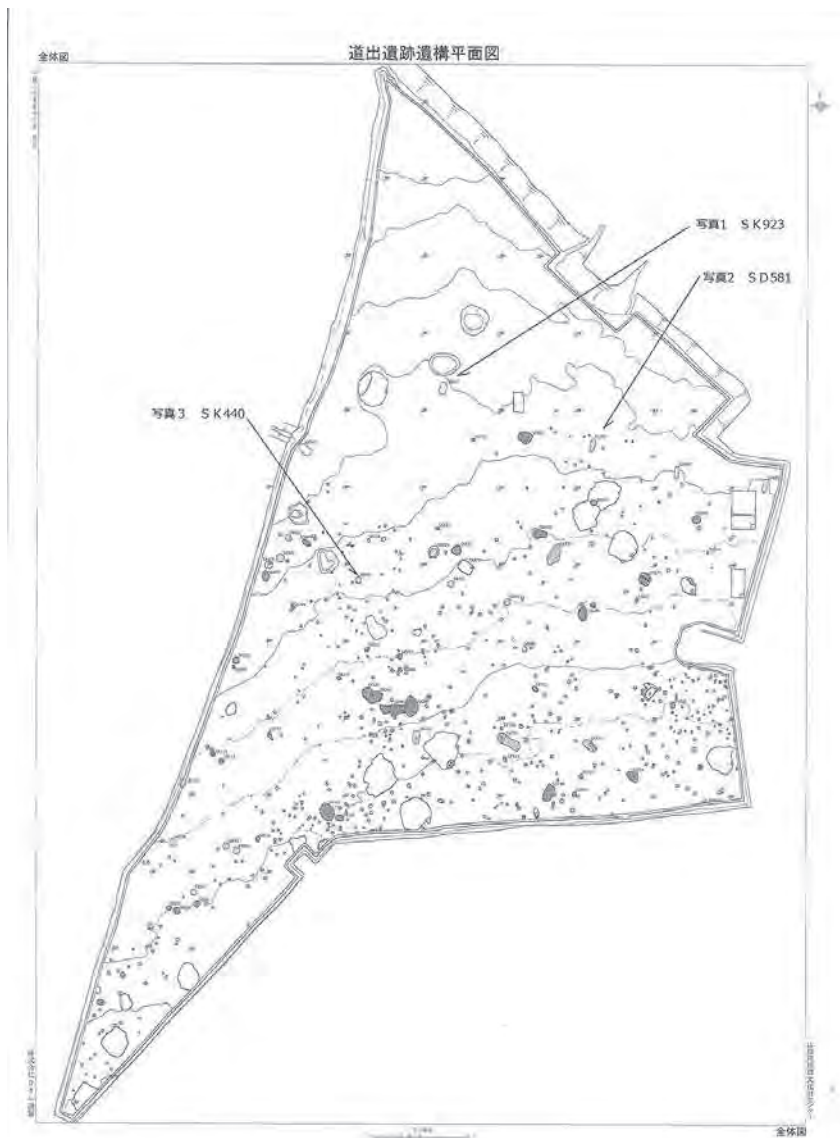


写真1 SK 923 陥し穴



写真2 SD 581 陥し穴



写真3 SK 440 陥し穴

図2 遺構配置図 (縮尺任意)

構、陥し穴状遺構・ピット状遺構や倒木痕など 920 基ほど確認されている。しかし、どの遺構からも出土遺物が無かったことから、これらの帰属時期は不明である。

陥し穴は溝状の長楕円形を呈するものや、円形を呈するものなど複数のタイプが確認されている。なかでも長楕円形の陥し穴は、等高線に直交してほぼ等間隔で並んでおり、けもの道などに設置されたと考えられる。また、底面に逆茂木を据えた穴が確認できるものもある。

遺物は縄文土器、および極少量の石器の出土にとどまった。調査区が遺跡の南東端であり、集落域の中心部からは外れているのかもしれない。縄文土器は県の試掘調査トレンチの最下層の埋め土からの出土である。

まとめ

今回の調査では、集落跡をうかがわせるような遺構は、

確認することはできなかった。調査区は遺跡範囲の南東端部にあたり、集落の縁辺で水場に向う鹿や猪などを狙う狩猟の場だった可能性がある。調査区西側の遺跡中心域と考えられる範囲は、現在畑地として利用されており、地下に眠る遺構や遺物は良好に残っていると思われる。今後の計画的で詳細な調査に期待したい。



写真4 試掘トレンチ出土の縄文土器